

システム企画研修 上野則男のメルマガ2012年1月号です

各位

明けましておめでとうございます。
配信日は12月27日ですから、
早すぎるご挨拶かもしれません。

今号は40号です。
3年以上続いたことになります。

そこで、昨年1年分を振り返り
ベスト10を作りました。

ある方から、
「上野則男のブログは、
”目的重視思考”をテーマにするのが第1ではないのか」
というご指摘をいただきました。

最近、「日本どうする」「日本頑張れ」のテーマが
多くなっていて反省しました。

そこで、ベスト10は、
目的重視思考をテーマにしたものを中心に選びました。

これを作るのに、ずい分苦労しました。
なぜか単に書き出し位置を揃えるのでも
WORDと違い、時間がかかりました。

皆さまからの「いいね」ボタンのクリックをお待ちしています。
よろしく願いいたします。

★—————No. 40 2012年1月—★

以下は作成順です。ブログでは逆の順序です。

■慰安婦問題の虚構

李大統領が何かたわごとを言い出した、という感じです。
日本国民が卑屈になる必要はないのです。
真実を知りましょう！！
<http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post.html>

■手帳を使う理由

この調査が新聞に載っていました。
これはアナログ（紙）派とデジタル派の「争い」だなと思い
ご紹介しました。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_23.html

■イトーヨーカドー 現場型仮説検証の限界

鈴木雅俊会長の「仮説検証」は
素晴らしい現場指導術だと感心していたのですが、
このご時世では通用しなくなりました。なぜ？
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_26.html

■COP17 なぜ日本が京都議定書延長反対？

素朴な疑問から始まった解説です。
各国の対応を見ていると、
みんな、自分の国のためしか考えていない、
ということがよく分かります。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_7183.html

■Sweeper 養成研修好評！ 第2期開催へ

これまでほとんど放置されてきた「保守」業務の改善・改革
を推進するエキスパートを育成する本邦初の研修
の状況のご紹介です。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_5422.html

■上野則男のブログ 2011年のベスト10

冒頭にご紹介したものです。

一部に補足解説も行いました。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_4307.html

- 今後に持ち越すテーマ
これだけ書いていても、次から次へと
日本社会は問題提起をしてきます。
なかなか追いつきません。
在庫の一部をご紹介します。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_1937.html

当メルマガは、
以下の方法でお送りいたしております。
このメール本文では、「上野則男のメルマガ」のテーマ名だけをお知らせします。
内容は、以下のいずれかの方法でご覧いただくことができます。

1. 月刊の「上野則男のメルマガ」
このURLで、バックナンバーを含めてご覧いただけます。
<http://www.newspt.co.jp/data/maimaga/mgbk.html>

ブログにアクセスできない方は、こちらをご覧ください。

2. 随時更新される「上野則男のブログ」
総括の入り口のURLは以下のとおりです。
<http://uenorio.blogspot.com/>

個別のテーマのURLは、下のテーマ一覧のところに表示しています。

3. 携帯で「上野則男のブログ」をご覧いただくこともできます。
携帯用のQRコードが、上記の「上野則男のメルマガ」の冒頭部、
または「上野則男のブログ」の冒頭部右に示されています。
ご利用ください。

ご意見等につきましては、ブログへの書き込み（なるべくこれをお願いします）か、当メールへの返信でお願いいたします。

★—————No. 40 2012年1月—★

- 慰安婦問題の虚構
李大統領が何かたわごとを言い出した、という感じです。
日本国民が卑屈になる必要はないのです。
真実を知りましょう！！
<http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post.html>

12月18日韓国の李大統領が来日した際、
慰安婦問題の解決を求めました。

ご承知のように、韓国の日本大使館の前には
慰安婦を象徴する銅像が建てられました。

韓国内で、
再び「慰安婦問題」が騒乱テーマになっています。

日本側は、
1965年の日韓請求権・経済協力協定によって
両国間の賠償問題は
「完全かつ最終的に解決済み」
なので補償はできない、としています。

この慰安婦問題とは、
第2次世界大戦中に韓国の女性が
日本軍に「強制連行」されて
日本軍の慰安婦として性的行為を強要された、
として日本政府の賠償を求めている事案です。

ですが、
そもそもそのような「強制連行」などはなかった
というのが、我が畏友茂木弘道氏などの主張です。

以下、茂木氏の主張の要点を、
富士山マガジンサービス社発行「歴史通」
2012年1月号に基づいてご紹介します。

一部に私の解釈が入っています。

1. 慰安婦にするための韓国女性の強制連行はなかった。

韓国女性の強制連行があったとされた（後述）
済州島城山里の住民の現地取材記事
（地元の済州新聞）では、こうなっている。
「そんなことはない。
250余の家しかない村落で
15人も徴用されたとすれば
どのくらいの大事件であるか
——当時そんなことはなかった」

1945年（？）3月、
韓国人軍属の米国での公式発言はこうなっている。
「太平洋の戦場であった朝鮮人慰安婦は、
すべて志願者が両親に売られたものばかりである。
もしも女性たちを強制动員すれば、
老人も若者も朝鮮人は激怒して決起し、
どんな報復を受けようと日本人を殺すだろう」

日本あるいは米国における客観的な調査
（女性への聞き込み調査を含む）において、
慰安婦強制連行の証拠は出てきていない。

2. 従軍慰安婦は、世界共通の「制度」であり、
そのこと自体はことさら非難されることではない。

日本は当時、売春が認められていたので、
軍が売春を運営していた。
米軍は国内法規で売春を認めていないので、
地調達（現地で運営している売春を利用）している。

3. 売春は対価を支払っての取引であり、
方的な強制行為ではない。

現に、韓国のある女性は2年6カ月ほど
慰安婦として働き、
26,145円貯金をしたのだという。
当時の将校の月給が90円だったので
その10倍以上稼いでいたことになる。
れっきとした職業だったのである。

貧困が支配していた社会では
非常に「よい職業」だったのではないか。

4. 慰安婦問題が発生したきっかけは、
日本人の煽動である。

1970年の千田夏行氏の「従軍慰安婦」

韓国に出向いて元慰安婦の人々に訴訟を
起こすことを呼びかけた青柳敦子氏、高木弁護士

極めつけは吉田清治氏の1983年刊行の
「私の戦争犯罪 朝鮮人強制連行」で、

「私はこういう悪いことをやりました。
女子挺身隊200名の動員指令を受け、
済州島などで慰安婦狩りを行ったのです」
ということを述べた。

吉田氏の主張を大々的に報じた朝日新聞は、
その後、
吉田氏の主張は虚構だということが判明しても

謝罪記事を掲載していない。

5. 1996年8月、当時の河野洋平官房長官が慰安婦強制連行を認め謝罪した。

その際、「広義の強制」があったとしている。「広義の強制」は意味不明である。この発言で「やはり、あったのか」ということになってしまった。

河野氏はとんでもない無責任者である。

6. 女子挺身隊の制度は、日本でも行われた（強制）若い女性の勤労働員であり、慰安婦ではない。

なおかつ、朝鮮においては強制を避けていた。この挺身隊への徴用が慰安婦狩りと結び付けられて誤用・誤解された面もある。

7. この問題は虚構だという状況証拠がある。

慰安婦への強制連行があったとされだしたのは、その記憶も生々しいはずの戦後すぐではない。それはおかしいことではないか。前掲のウソに基づく煽りが原因だと想定される。

結論

1. 軍が管理する慰安婦の制度はあった。
2. しかし強制連行はなかった（少なくとも大きく騒がれるような規模では）。
3. 強制連行があったという誤解は、日本人自らが作りだした売名的虚構に基づいている。
4. 「慰安婦はいけない」「挺身隊は不当である」というような価値観がこの「誤解に基づく煽動」を大きくする要因になっている。

■手帳を使う理由

この調査が新聞に載っていました。これはアナログ（紙）派とデジタル派の「争い」だなと思いご紹介しました。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_23.html

日経新聞の12月某日の「サーベイ」欄に以下の記事が載っていました。

仕事を持つ20代～50代の男女1000人にインターネットで聞いた調査です。

手帳を買う人	48%
買わない人	37%
未定	15%

ですが、買わない人の中に勤務先から支給される人が2割弱いますから、手帳を使う人は、55%となります。

手帳を買わない人の中でスマホなどで予定を管理する人は、26%程度です。

したがって、手帳なしでスマホのみの人、つまり完全デジタル派人間は今はまだ1割弱だということです。

スマホ保有者の半分以上（54%）は

手帳も利用する人だそうです。

手帳の便利な点は、

一覧性が高い
すぐ記入できる
毎年使っていて慣れている
自由な使い方ができる
電子式と違い情報が消える恐れがない

ということが支持されています。

この状況は一般的な情報（新聞や図書）の紙派とデジタル派のすみ分け状況と軌を一にしています。次第にデジタルになっていくのでしょうか。

「早い、うまい、安い」の価値目標で評価するとこうなります。

[うまい] 一覧性が高い
次第にデジタルが追いつくでしょう
(利用者の習熟の問題です)

[うまい] すぐ記入できる
「一覧性が高い」よりは難しい目的ですが、技術進歩と習熟で（今の若い人の入力はやいですね！）いずれ追い付くでしょう。

[うまい] 自由な使い方ができる
これは完全に慣れの問題ですね。

[安い] コスト
この調査結果から算出すると、手帳の平均価格は、約1500円です。デジタルの方はこのためだけの特別な費用がかかるわけではありませんからデジタルの方が「安い」となります。

[早い] 検索機能
この調査にはありませんが、記録や連絡先を探すなどの検索機能は圧倒的にデジタルです。

ということで、デジタル派勝利は時間の問題ですね。5年くらいかかるのでしょうか？

■イトーヨーカドー 現場型仮説検証の限界
鈴木雅俊会長の「仮説検証」は素晴らしい現場指導術だと感心していたのですが、このご時世では通用しなくなりました。なぜ？
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_26.html

高収益を誇ったスーパー（GMS）のイトーヨーカ堂が苦戦しています。

ヨーカドーグループが高収益を実現できたのは、鈴木敏文会長が提唱した現場重視の「仮説検証」がその一因でした。

「明日は雨だから○が売れる」
「明日は近くの小学校の運動会だから、△が売れるだろう」

という具合に「頭を使って発注をせよ」
「結果が思うようにいかなかった場合は『なぜそうだったか』を考え次に生かせ」

ということをパートの女性にまでも叩き込みました。

ところが、
このような現場型の「仮説検証」方式は、
商品構成が安定している場合には有効ですが、
現在はそうはいきません。

売れ筋商品の傾向が大きく替わっていくのです。
取扱い商品を決めるバイヤ（商品調達担当）の判断が
販売を左右することになります。
取り扱っていない商品については
発注のしようがありません。

特に、日用品としての肌着類を除く衣料品の場合は
現場の判断ではどうにもなりません。

そこで、ヨーカドーでは百貨店方式の導入や、
売れる店への商品の「移動集約」方式の導入など、
「改革」を実践中です。

教訓は次のとおりです。

1. 業績の良い企業や現場は新しい波に乗り遅れる。
現状に安住してしまうのです。
2. 現場型の仮説検証は、改革時には効果を発揮しない。
現場の運営の効率化では、
環境変化には対応しきれません。

興味深いのは、
鈴木敏文会長は改革にも成功するだろうか、
という点です。

2011年11月28日の日経MJに
鈴木会長のこういう取材記事が載っていました。

「衣料品のレベルを上げていく。
商品政策（MD）を強化することで
（GMSの）再生は可能だ」

ここから少し話題を変えます。

鈴木会長は私が畏敬している経営者の一人です。

創業者の伊藤雅俊氏が、
不祥事で急きょ引責辞任となったときに、
鈴木氏が後を継ぎ
見事に優良企業グループに育て上げたのです。

一族ではない鈴木氏が社内におられたことは、
ヨーカドーグループにとって幸運なことでした。

ジャスコ（イオン）は創業者2世の岡田元也社長が
大活躍しておられます。

それに引き換え、
ポスト中内功氏の出現がなかったダイエー
はすっかり凋落してしまいました。

2位以下と2倍以上の売上規模で
ダントツのナンバ1が、
3位グループだったイオンの傘下に入ることになってしまったのです。

少なくとも伝統的大企業以外では、
トップの力量が経営を決めると言ってよいようです。

経営者の一番の責任は
経営の発展を継続できるように（「ねらい」）
その状況を社内に作ること（「目的」）です。

そのためには、
優秀な後継者を発見・育成し
その方にバトンタッチしなければなりません。

出来の良くない息子に後を継がせることが、
目的になってはいけません。

このことは
社会を見ている創業者は学んでいて、
「一族には継がせない」を宣言しておられます。

成功例と失敗例がGMS業界にあるのです。

■ COP17 なぜ日本が京都議定書延長反対？
素朴な疑問から始まった解説です。
各国の対応を見ていると、
みんな、自分の国のためしか考えていない、
ということがよく分かります。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_7183.html

これは当初私が抱いた疑問でした。
CO2削減に熱心なはずの日本がなぜ？
というものでした。

そもそもCOP17って何？を確認しておきます。
COPは、Conference of the Partiesの略。

17は17回目という意味です。
以下の解説にあるように、
1回目は95年でした。

何のPartiesかという、こうなのだそうです
(k o t o b a n k 知恵蔵2011
葛西奈津子さんの解説)
1992年の地球サミット(国連環境開発会議)で
採択された「気候変動枠組条約」の締結国により
温室効果ガス排出削減策等を協議する会議。

条約に関する最高決定機関であり、
95年の第1回会議(COP1、ベルリン)以来毎年開催されている。

97年のCOP3は京都で行われ、
2012年までの各国の具体的な温室効果ガス排出削減目標を課した
「京都議定書」(Kyoto protocol)が採択された。

2001年大統領就任直後のブッシュ米大統領(当時)が
京都議定書交渉からの離脱を宣言し、
オーストラリアも京都議定書を締結しないと表明したことで、
締結国数の不足により発効が遅れた。

ロシアの議定書締結(2004年)を経て、05年に発効。
日本は、08年から5年間で温室効果ガス排出量を6%
(対90年比)削減する内容で、
98年に署名、02年に締結した。

疑問1 なぜ特定の国だけが削減目標？

現在の京都議定書の削減義務は、
先進国だけに課されています。

その理由は、先進国がこれまでその成長過程で
大量の温暖化ガスを排出してきたので
その償いをする、
後進国はこれから成長しなければならないので、
しばらく「大目に見る」という考えのようです。

そこで中国はもう責任を持つべきではないのか、
という考えが出てきています。

インドも同様です。

疑問2 米国はなぜ加担しない？

米国は当然先進国で責任を負うべき国です。
ところが、米国の産業界が規制に反対し、
米国産業の競争力低下を恐れた共和党の大統領である
ブッシュが離脱の意思決定をしたのです。
日本以上に自己中心的思考です。

疑問3 温暖化ガス排出規制に熱心な国はどこ？

途上国とEUです。
途上国は弱小国家で、
異常気候など
地球温暖化の悪影響をまともに受けています。
島嶼国は、国がなくなる危機を感じているのです。

EUは、多くの国が国境を接している
隣国の影響を受けやすい状況にあります。
そこで、みんなで取り組んで環境の維持をしたい
という考えなのでしょう。

せっかくできかけてきた
「排出量取引市場」の優位性を維持したいという
思惑もある、とされています。

疑問4 なぜ日本が京都議定書の延長に反対？

日本は温暖化ガスの排出規制には積極的です。
京都議定書の策定にも貢献しています。

ですが、現在の京都議定書は、
当時の先進国のみが削減義務を負う内容です。
しかも、米国は参加していません。

当時と状況が変わって、
中国やインドなどの産業も強くなっています。
彼らがいつまでも負担なしでは不公平である、
という考えのようです。

現に、日本の産業界は、
日本が京都議定書の単純な延長に反対し
削減義務を負わないことにしたことを
評価しています。

不思議なことは、
日本が京都議定書延長反対の立場であることについて
マスコミが積極的に報道や解説を行わなかった
ことです。
そのことが、冒頭の私の疑問に繋がっています。

疑問5 日本は温暖化ガス削減努力を止めてしまうのか？

そうはならないようです。
国際的には公約しませんが、
国内では法的規制を継続するようです。

これからの地球社会では、
温暖化ガス対策技術は「有力な商品」です。
この世界から引くことはあってはなりません。

あらためて、日本の考えを整理するとこうなります。

「ねらい」 国としての基本姿勢
温暖化を防止し、好ましい地球環境を維持したい。

そのためには、
多くの温暖化ガス排出国が削減努力を行うべきである。

一部の国だけが削減努力を行うことは不公平であるし、効果も限定的である。
今回の合意の範囲だと
13年以降に削減義務を負う国の排出量は、全世界のわずか16%に過ぎない。
「目的」 COP17での対応方針
ねらいに則して、
大量排出国が十分に削減義務を負う協定とすべきである。

一部の国だけが削減義務を負う京都議定書の延長には反対である。

大量排出国がそれなりの責任を負う方向の取り決めに対しては賛成する。

■ Sweeper 養成研修好評! 第2期開催へ
これまでほとんど放置されてきた「保守」業務の改善・改革を推進するエキスパートを育成する本邦初の研修の状況のご紹介です。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_5422.html

Sweeperとは、
ソフトウェア保守業務の改善・改革を推進するプロフェッショナルのことです。

そのSweeperを養成する研修は、
データ総研とシステム企画研修とが開催しています。

この研修に参加する方は、その組織の代表として
従来ほとんど放置されてきて「宝の山」状態の
保守業務の改善に取り組むこととなります。

それが可能となるように、実践的な訓練を実施します。

プロセス整備の総論編とツール利用などの各論編
とから構成されているだけでなく、
順次再構築手法、
案件受付時に適用できる見積り手法
など革新的な手法も学びます。

前者は、こういうものです。
ダメなシステムを保守していても、
手間がかかる上に問題(障害)を起こすのですから
「やっつけられない!」ということになります。

そこで「作り直そう」ということになるのですが、
一挙に作るのはお金がかかりリスクもあります。
少しずつ保守業務の傍らで作り直しをしよう
というのがこの案です。

後者は、保守の見積りほど第3社から「見えない」
ものはありません。

これを「見えるようにしよう」しかも
保守の要望を出したら
「すぐに見積れるようにしよう」
というのが「新方式」です。

このような明るい希望に導かれながら、
日々の改善もしていこう、
という基本スタンスで、技術習得をしていただきます。

お申込みいただいている例をご紹介します。

1. 第1期でAグループの方が参加された。
第2期では、BとCグループの方が参加される。

2. 1月から保守専門チームができるのでそのメンバが受講される。
3. (複数例) これまで“超”プロマネ養成研修を他流試合でキーマンを鍛える研修としてご利用いただいていたが、“超”研修がなくなったので、この研修をそういう場として活用される。

間もなく定員になります。
お早めにお申し込みください。お待ちしております。

■上野則男のブログ 2011年のベスト10
冒頭にご紹介したものです。
一部に補足解説も行いました。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_4307.html

2011年1月号が
通算118番から始まりまして、
12月号が233で終わりましたので、
1年で116編書いたこととなります。
月平均10編です。多すぎますね。

その中からベスト10を選んでみました。
もともこのブログは、
「目的・ねらい」を追求するテーマを中心に
編成しよう、ということでした。

「そうっていないではないか」
というご指摘もいただいておりますので、
このベスト10は、
以下の基準で選定させていただきました。

- 1) 「目的・ねらい」を追求している。
- 2) 上野がアピールしたい内容を持っている。

ここであらためて、私たちが主張する
「目的・ねらい」の追求とは何か、
について簡単にご紹介しておきます。

「目的・ねらい」の追求とは、
何かをしようとする際に、
「これは何のためにするのだろうか」
をトコトン考えましょう、ということです。

「目的・ねらい」は、
「目的」と「ねらい」に分かれます。

「ねらい」とは、
検討している何かが実現したら、
実現させたい成果です。

ビジネスの場合の「ねらい」の中心は、
「早い」「うまい」「安い」です。

「早い」が一番なのです。
昔から「時は金なり」と言います。
昨今の情勢は正にそのとおりでしょう。

これらを目標とする価値という意味で
「価値目標」と称しています。
「早い」「うまい」「安い」は、
お客様が望む価値です。

お客様が望む価値を実現すれば、
企業は発展しますから、
お客様が望む価値＝ビジネスが目指すべき価値
なのです。

その「ねらい」を実現するために、
検討している案件では何を実現すべきかを
「目的」と言います。

実現の順序は
目的の実現→ねらいの実現 ですが、
検討の順序は
ねらいの実現→目的の実現

でなければならないのです。

ベスト10は、以下のとおりです。

1. アメリカの目的思考、合目的主義 2011. 9

アメリカの自己中心とすら思える目的思考は
どこから来たのかを探求しました。
アメリカの目的思考は筋金入りです。敵いません。
http://uenorio.blogspot.com/2011/08/blog-post_17.html

2. 韓国の「パルリ」精神 日本の意思決定の遅さ 2011. 9

その要因は「早い」だということを確認しました。
韓国の製造業は、本来日本の独壇場のはずの領域で
世界市場を席巻しています。
http://uenorio.blogspot.com/2011/08/blog-post_23.html

3. 尖閣諸島についてもっと知りましょう！2011. 1

http://uenorio.blogspot.com/2010/12/blog-post_9561.html

尖閣諸島についてもっと知りましょう その2 2011. 3
http://uenorio.blogspot.com/2011/02/blog-post_6354.html

尖閣諸島問題は、
2010年10月に初めて取り上げましたので、
<http://uenorio.blogspot.com/2010/09/blog-post.html>
合計3回取り上げたことになります。

このシリーズでは、
日本領土であることの根拠の主張をご紹介します。

欠けていたのは、
「中国はなぜ尖閣を取りに来るのか」
の書籍の内容についての解説です。
この点について補足させていただきます。

この書籍で、田久保忠衛氏（杏林大学名誉教授）と
平松茂雄氏（中国軍事問題専門家）が対談しています。
その要約です。

中国が尖閣を取りに来る「ねらい」は、
まずは海洋資源（石油）獲得だが、
それよりも
海軍が太平洋に出てくるルートの確保が大きい
（沖縄本島から宮古島までを日本に抑えられていると
中国は迂回しないと太平洋に出られない。
尖閣をとれば、日中中間線が大きくずれてくる）

東南アジア諸国と揉めている西沙諸島/南沙諸島問題も
同じ太平洋ルート確保がねらいである。

4. マスコミの無責任さ 2011. 3

このテーマも再々取りあげているものです。
<http://uenorio.blogspot.com/2011/02/blog-post.html>

この編では、

相撲の八百長問題の報道にクレームをつけました。
国民が関心を持つことなら、何でも報道するのか？
その結果、
「国技」への国民の関心が薄れたらどうなる？
そこまで考えてほしい、ということでした。

確かに、
新聞も民間事業ですから、
儲からなければ継続できません。

したがって、マスコミの報道の「目的」は、
対象者が関心を持つ→「メディアが売れる」
ということでしょう。

しかし、「ねらい」はどうなっているのか、
が問題です。
これをしっかりさせて、
それに副って
報道の取捨選択をしていただきたいのです。

この「ねらい」は「日本の発展に貢献する」とか
「貧富の差をなくす」でもいいでしょう。
そういう節、筋がはっきりしないので、
無責任な報道になるのです。

5. 共通番号制度に誰が反対するのか 2011. 1
http://uenorio.blogspot.com/2010/12/blog-post_23.html

共通番号制度の「目的・ねらい」は、
はっきりしています。
「目的」は、
国民一人一人を識別できる共通番号を設定する。

「ねらい」は、
識別番号の重複管理の手間・コストが削減できる。
「名寄せ」によって、不当な利得を排除できる。
例：1人300万円までとなっている貯金を
偽名や他人名義を含め複数設定する。
所得を分割して所得税の累進課税を逃れる。
保険診療の無駄遣い(重複診療)をしている。

どの「ねらい」も悪いことは一つもありません。
反対者は、
それが行われなくなると収益の減る人たちです。

ですが、表立っては反対できませんので、
「プライバシーの侵害」
「個人情報の保護」を理由にしています。

いずれも公的正義より優先するものではありません。
これらの反対論は、
共通番号制度の運用方法のことを

懸念しているのですから、
そのような運用ができるようにすればよいだけ
のことです。

もっともらしい反対論を報道するマスコミは
まったく「無責任」です

6. 介護も医療も現状是認はではダメ！2011. 1
http://uenorio.blogspot.com/2010/12/blog-post_6023.html

弱っている人、
健康を損なっている人を助けるのではなく、
元気にすることに投資をした方が、
みんなハッピーではないのかという主張です。

先日のフジテレビで、
舛添要一元厚生労働大臣も

そのような発言をしていました。

この項では、はっきり目的論を展開していました。
以下のとおりです。

介護制度の目的を、
「要介護者に適切な介護サービスを提供する」

ではなく、
「要介護者が、介護を必要としなくなるような、
あるいは、介護度の改善が進むような手助けを行う」
とすればよいのです。

そうして、その目的の達成度に応じて、
介護サービス提供者に
追加報酬を支給するようにすればよいのです。

同じように、医療制度の目的を
「治療を必要としている人に、適切な医療を施す」
ではなく、
「治療を必要としている人が、
1日も早く治療を必要としないようにする」
とするのです。

7. 教育の方法を変えましょう！ 2011. 2
http://uenorio.blogspot.com/2011/01/blog-post_29.html

今の社会は、
大卒者の就職難、大卒者の無能力ぶりが喧伝され、
その責任は今の学校が進学中心で、
与えられた問題に答えることばかりを
勉強しているせいだ、

これではいけない、少し考えさせようということで
「ゆとり教育」をしてみたが効果がない
というようなことになっています。

これに対して、京都堀川高校で
「自分で考えさせる教育」をしたところ
1年で国公立大学合格者が6人から
106人に急増したことを本稿でご紹介しました。

私はかねてから「幼稚園時代から競争心を」植え付け
創意工夫をさせましょう、という主張をしています。
http://uenorio.blogspot.com/2010/05/blog-post_741.html

人生の目的は何ですか？
有名大学に入ることではないはずです。
そういう指導をすれば、大学に入ると目標を失って
ダメ人間になってしまうのです。
私のいた大学でもそういう人をたくさん見ました。

人生を楽しく有意義に過ごすことが
ゴール（ねらい）のほうです。
何が楽しいか、何が有意義かは
個人によって異なるでしょう。

教育の目的は、それが何かを見つけ出し、
そのための学習・習得をするようにすべきでしょう。
そのためにも
自分で考える習慣をつけないければなりません。

8. 指導・しつけの原理 2011. 11
http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_2464.html

105歳で養護施設「しいのみ学園」の理事長
をしておられる昂地三郎さんの指導原理を
紹介させていただきました。

この指導原理の1番目に
活動の原理（揺さぶる、刺激を与えて反応させる）
がありました。

障害がある方への指針として1番めであることは
納得しやすいのですが、
幼児でも同じだということを
孫の対応で実感しています。

以下が本稿の記述でした。

これをビジネスに展開すると
ビジネスでは肉体的な一体感やスキンシップは
問題でしょうから、
以下のようになるのではないのでしょうか。

それは、
一緒に汗を流す
一緒に苦勞をして一体感を醸成する
ということでしょう。

「上から目線」で指示をするだけでは
人の心は動かさません。
アメリカ型のマネジメントはその点失格です。

若干補足します。
この日本式マネジメントは
人間の根源原理に基づいているのです。
どこの国に行っても通じるはずです。

日本は日本流を活かして
世界に打って出しましょう。

目的：日本流マネジメントを行う。
ねらい：世界中の人間から受け入れてもらえる。

なのです。

9. 低放射線量は有益であるという証明 2011. 6
http://uenorio.blogspot.com/2011/05/blog-post_14.html

低放射線量の有益性について：再論 2011. 7
<http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post.html>

低放射線量の有益性について再々論 2011. 8
http://uenorio.blogspot.com/2011/07/blog-post_31.html

「放射能は怖い」のウソ 2011. 10
<http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post.html>

このテーマは非常に非常に重要なので
繰り返しています。
現状は、科学的に見ると
「とんでもない」状況なのです。

すべての放射線が有害であることを主張する根拠は
ICRP（国際放射線防護委員会）
の1990年の規定です。

ICRPは2007年に改訂版を出し、
厳しい条件を緩和していますが、
日本社会は厳しいママが幅を利かせている状態です。

この20～30年間、多くの実証的研究が行われ、
年間100ミリシーベルト以下の被曝は
むしろ有益であることが判明してきています。

しかし、このことを認めたくない人
(ICRP関係者およびそのお先棒を担いできた人)
は未だ十分な確認はできていない、
これから年月をかけて確認しなければならない、
などと嘯いています。

この誤判断によってどれだけのロスが発生しているか
避難した原発周辺の人たちが戻れない
住まい、学校がバラバラのまま
農作物・畜産物が出荷できない
気の遠くなるような除染を行わなければならない

理屈抜きで早くこのロスを解消しなければなりません。

10. ソフトウェア保守の改善をしましょう！ 2011. 9

これは、
私が責任者であるシステム企画研修株式会社が
力を入れているソフトウェア保守業務の改善事業を
ご紹介したものです。

<http://uenorio.blogspot.com/2011/08/blog-post.html>

その内容を、若干補足を含めてご紹介します。

1. 保守業務の革新研究トップセミナー

保守業務改善・改革の必要性・有効性を説く
「啓蒙」無料セミナーです。隔月開催です。

<http://www.newspt.co.jp/data/semina/tops.html>

2. ソフトウェア改善・改革の実践研究会

ソフトウェア保守業務に関わっている方々が
一堂に会し、
抱えている問題や改善の取り組み方法について
お互いに意見を出し合う年単位の研究会です。

今年度分は次回1月19日(木)ですが、
そこからでも参加できます。

http://www.newspt.co.jp/data/slcm/hosyu_ken.html

3. Sweeper 養成研修

ソフトウェア保守業務の改善・改革方法を習得し
社内の改善・改革の推進者になっていただくための
半年研修で、本邦初の内容です。

第1期は2011年6月に開始したのですが、
ご好評でしたので、
第2期(2012年2月27日開始)を募集中です。

おかげさまで、ほぼ定員になりつつあります。

<http://www.newspt.co.jp/data/sweeper/sweeper.html>

4. ソフトウェア保守業務改善・改革コンサル

兄弟会社である株式会社データ総研と共同で、
以下の資料のようなメニューで実施します。
クリックしてください。
ソフトウェア改良開発コンサルメニュー

この資料では、
「保守」を「改良開発」と称しています。

この中の改良開発業務新見積り手法導入支援は、
2011年11月号の

「大発明！ソフトウェア保守工数の新見積り手法」
でご紹介しています。
http://uenorio.blogspot.com/2011/11/blog-post_4112.html

番外 プライベートなテーマ

以下のような記事を写真付きでご紹介しました。
これはこれで、
ご好評いただいたのではないかと考えています。

自由にお持ちください 2011. 4
http://uenorio.blogspot.com/2011/03/blog-post_14.html

赤ちゃんの無垢な笑顔が特上 2011. 5
http://uenorio.blogspot.com/2011/04/blog-post_2244.html

我が家の前に立派な公園ができました 2011. 5
http://uenorio.blogspot.com/2011/04/blog-post_2728.html

ゴールデンウィークの成果 2011. 6
http://uenorio.blogspot.com/2011/05/blog-post_16.html

ちょっと休憩 2011. 7
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_16.html

花の話題つづき 2011. 7
http://uenorio.blogspot.com/2011/06/blog-post_4114.html

0911 1周年 2011. 10
http://uenorio.blogspot.com/2011/09/blog-post_3106.html

私の趣味「銀杏採り」のご紹介（写真なし） 2011. 11
http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_6221.html
写真は、前年のブログ「今年は銀杏が不作でした」
をご覧ください。
<http://uenorio.blogspot.com/2010/11/blog-post.html>

我が家の前の公園の賑わい 2011. 12
http://uenorio.blogspot.com/2011/11/blog-post_9754.html

■ 今後に持ち越すテーマ
これだけ書いていても、次から次へと
日本社会は問題提起をしてくる。
なかなか追いつきません。
在庫の一部をご紹介します。
http://uenorio.blogspot.com/2011/12/blog-post_1937.html

毎回多くのテーマを追いかけていて、
一部の皆様から「不評」をいただいておりますが、
取り上げたいテーマの積み残しがあります。

今時点で、以下のテーマに関心があります。
今後、機会をみて取りあげたいと思います。

1. 社会保障改革

- ・年金の支給開始年齢引き上げ
- ・診療費徴収方法の変更
- ・治療より予防・健康強化へ
- ・高齢者の生きがい強化

など、大きなテーマが並んでいます。

2. 幼児虐待

基本的には親の問題ですが、
何とかならないのでしょうか。

私は現在、孫に接していて、
何でそんなむごいことができるのだろうか、
と胸が痛くなります。

3. ボーイングの納期遅れ

ボーイングの最新鋭機787の初号機引き渡し
が全日空に対して9月26日に行われました。

しかし本来は
2008年5月に引き渡されるはずだったのです。

欧州のエアバスと競って、
納期の早いことを武器に競り勝ったのです。

その際、機体を日本で作るのですが、
納期短縮のためその機体を運ぶ専用機を作る
ということが話題になりました。

受注してしまえばこちらのもの、
というわけではないでしょうが、
何度も納期変更してとうとう3年半遅れなのです。

こんなことって許されますか？

このことは是非解明したいと思います。
なぜそんなに遅れたのか。
そもそも初めの納期はいい加減だったのか。
全日空に対してはどのような対応をしたのか。
全日空はどう考えたのか。

【弊社からのお知らせ 目次および開催日程】
<http://www.newspt.co.jp/data/schedule.html>

- ▼ 2011年度S L C M研究会 (システム・ライフサイクル・マネジメント研究会)
～ソフトウェア保守業務改革の実践～ 追加募集中
- ▼ 保守業務の革新研究トップセミナー
～保守コストの半減を目指して～ 2012/1/11
- ▼ システム分析・企画コース 2012/2/8、29
- ▼ 第2期保守業務改革プロフェッショナル (Sweeper)
養成講座 2012/2/27開講

-
- ▼ 2011年度S L C M研究会 (システム・ライフサイクル・マネジメント研究会)
 - ◆ソフトウェア保守業務改革の実践研究会 (通称：保守研究会)

9月15日からスタートいたしました。
現在、後半の回からのご参加を募集しております。
研究会内容の詳細は是非お問い合わせください。

今後の開催日程：第3回研究会 2012年1月19日 (木)・20日 (金) (*宿泊型)
第4回研究会 3月15日 (木)
* 13:30～18:30まで研究を行い、その後情報交換会を実施します。
第3回研究会のタイムスケジュールはお問い合わせください。

http://www.newspt.co.jp/data/slcm/hosyu_ken.html

対象者：ソフトウェア保守業務の改善・改革をミッションとしておられる方、
ご関心のある方など、是非ご参加ください。

参加費：お1人参加：73,500円
お2人参加：94,500円（いずれも税込）

▼ 保守業務の革新研究セミナー
～保守コストの半減を目指して～ 2012/1/11

◆2012年1月11日（水）14:00～19:00

<http://www.newspt.co.jp/data/semina/tops.html>

対象者：情報システム・IT部門長殿、
およびそのご推薦の方で保守業務の改善にご関心のある方
参加費：無料

▼ 第17回 システム分析・企画コース 2012/2/8、29

◆2012年 2月8日（水）、29日（水）

<http://www.newspt.co.jp/data/kensyu/open/f11.html>

従来2日連続コースだったのを1日、1日にしました。
内 容：システムの問題分析からシステム企画提案書作成に至る各種手法
対象者：職務経験3年以上の方、その他の制限はありません。
時 間：9:30～18:00
参加費：81,900円（テキスト代、e-learning・税込み）

▼ 第2期保守業務改革プロフェッショナル（Sweeper）養成講座・2012/2/27開講

◆ご好評により、第2期研修を開講いたします。
2月27日（月）から6月19日（火）までの間に9講座を隔週開催で実施し、
その後、3カ月の間に実践をしていただく研修です。
改善と改革を盛り込んだ内容で構成しております。
詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.newspt.co.jp/data/sweeper/sweeper.html>

対象者：・一般企業・情報子会社殿：システム／IT部門の中堅社員
・情報サービス企業殿：社内またはお客様企業に対しての
改善・改革の推進担当者
・いずれも二人ペアで、連携して改善・改革を進められる組み合わせ
でのご参加がお勧めです
（スタッフとライン、マネージャと担当、発注企業メンバと
委託先企業のメンバ、等、）。

参加費：お2人のペア参加で525,000円（税込み）

◆内容等のご説明等に伺いますので、是非ご用命ください。

お申し込み・お問い合わせにつきましては本メールへの返信あるいは
弊社HPよりお願いいたします。

↓
<http://www.newspt.co.jp/data/schedule.html>

☆☆アドレス変更・送信停止等は本メールへの返信にてお願いします☆☆

=====
システム企画研修株式会社
Tel：03-5695-3130、Fax：03-5695-3131
〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町16-2 東事協ビル2F
mind-pc@newspt.co.jp
<http://www.newspt.co.jp>
=====

ソフトウェア改良開発コンサルメニュー

<p>1. 改良開発業務の経営貢献診断</p>	<ul style="list-style-type: none"> • いかなる改善・改革であっても、その入り口は現状認識と目標設定です。 • 本サービスは、ITIL、BSC、CMMIなどの知見を取り込んだフレームで、保守業務が「経営に貢献できないリスク」「利用者に満足いただけないリスク」を診断し、改善の優先順位を提示いたします。
<p>2. 改良開発業務新見積り手法導入支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> • この手法は、保守依頼の受付段階で保守内容のみによって保守工数を見積ることのできる方法で、「見積りの見える化」、「見積りの脱超ベテラン」を実現する画期的手法です。 • 本サービスでは、この見積り手法の根幹をなす見積り用パラメータ設定のお手伝いをいたします。
<p>3. 改良開発の要件定義業務整備支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 改良開発の要望受付から改良開発実施の決定までの検討プロセスは、どちらかという「担当者任せ」で、明確な検討手順が設定されていない場合が大半です。このことにより多くの問題が発生しています。 • 本サービスでは、大きな手間をかけることなく的確な要件設定ができる方法を、御社の状況に合致した内容の手順書として作成させていただきます。
<p>4. 影響範囲調査ツール導入支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ソフトウェア保守の作業やシステムの品質を大きく左右するのが影響調査です。しかし、実際には、多くの企業でドキュメントが存在しなかったり、ドキュメントが陳腐化していたりすることが多く、効率的に保守を進めることが難しい状況にあります。 • 本サービスは、実際のプログラムなどのソースから、プログラム間の関連や、データとの関連を可視化する「影響範囲ツール」を導入することをご支援するものです。
<p>5. 改良開発用ドキュメント整備支援 業務情報系</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ソフトウェア保守で重要な知識には、対象業務の知識があります。 • 本サービスは、業務知識として必要な業務フローや業務データモデルを整備するお手伝いをするものです。
<p>6. 改良開発用ドキュメント整備支援 システム情報系</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の情報システムには多数のシステムドキュメントが存在しています。しかし、その内容はドキュメント間で重複が多く、不要な情報なども混在しています。 • 本サービスは、ドキュメントをソフトウェア保守に必要最低限なものに限定することによって、保守作業の効率化と、結果をドキュメントに反映する工数の削減を実現するお手伝いをするものです。
<p>7. 改良開発用ドキュメント整備支援 設計思想情報(設計方針情報)系</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 通常のシステム開発では、機能分割基準や機能配置基準などの設計思想を作成してから開発されます。しかし、多くの場合、設計思想は様々なドキュメントに分散しており、設計思想が踏襲されずに徐々に崩れていきます。設計思想の異なるソフトウェアが混在すると、メンテナンス漏れによるトラブルや同一機能を多数作成してしまう恐れがあります。 • 本サービスは、弊社の保有する設計思想項目を元に、分散している設計思想をひとつのドキュメントにまとめなおすものです。
<p>8. 改良開発用情報のリポジトリ化支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 多くのシステム関連のドキュメントは概要設計書に記載されているプロセスの詳細が別の設計書に記載されるなど、それぞれ多くの関連を持っています。これらのドキュメントを関連付けて管理するデータベースがリポジトリです。 • 本サービスでは、リポジトリの設計・構築、運用体制・ルールを支援するものです。
<p>9. データクオリティマネジメント整備支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の情報システムは単一システムからのデータだけではなく、多くのシステムを経由したデータをさらに加工するようなことが増えています。このような状況では、それぞれのシステムには不具合がないのに集計タイミングなどの運用のずれなどから、データの整合性が崩れてしまう場合があります。 • 本サービスは、データ品質の維持策の実施やツールの導入を支援するものです。
<p>10. 改良開発の改善改革マニュアル提供サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 改良開発の実施方法はこれまで本格的な改善が実施されていません。そのため、改善の「宝の山」状態となっております。 • 本サービスでは、以下の知見を集大成して改良開発業務の改善・改革用のマニュアルを作成しています。(株)データ総研・システム企画研修(株)のコンサル成果、研究会の成果、各社での実践成果、各種公表資料。 • このマニュアルの最新版に御社の特定ニーズを加味した特別版の提供も可能です。